

かざね
四万十の風音

しんせん
森&川だより



春の四万十川

「鬼ヶ城ピークストレイルランレース」前に点検

宇和島市の東にそびえる鬼ヶ城山系で4月10日、鬼ヶ城ピークストレイルランレースが初開催（宇和島市や市出身者の愛好家らでつくる宇和島トレイルランニング協会の主催で、鬼ヶ城山系の知名度を上げ、地域活性化につなげようとの趣旨で実施。）されました。

当日は105名の健脚なランナーが参加し、千m級の春の山々を駆け抜けました。

このレースは、宇和島市和霊町の丸山公園（標高80m）をスタートし、鬼ヶ城山系の尾根付近の登山道を周回するよう設定、走破するレース（総延長距離53km、累積標高3,500m）で、参加者は午前6時のスタートから13時間という制限の下、三本杭さんぼんぐい（標高1,226m）や四国西南域最高峰の高月山（最高標高1,229m）、国立公園滑床溪谷などを巡りました。

また、ルート上の約半分程度が国有林内で、沿線には当センターが管理するシカ対策の防護柵を5,620mにわたり張り巡らせているため、登山者出入り用のゲートが4カ所あります。

当該地域は増えすぎたニホンジカの食害から自然を守る再生事業として、平成18年度からシカ防護柵を設置していますが、この時期は、積雪後の修理や新芽の芽吹きによるニホンジカの侵入などでメンテナンスが欠かせない時期です。

その矢先、本レースの管理を委託された宇和島山岳会から、シカの防護柵でのニホンジカの事故死やネットの傷みなどの近況報告を受け、当センターにおいてもレース開催前にルート上のシカ防護柵の点検・修理を行いました。

これから夏山シーズンに向けて登山者も増え、山の情報も沢山入ると思いますが、シカ対策への理解と登山道が安全利用できるよう巡視し、メンテナンスを実施していきたいと考えています。



トレイルランレースの看板



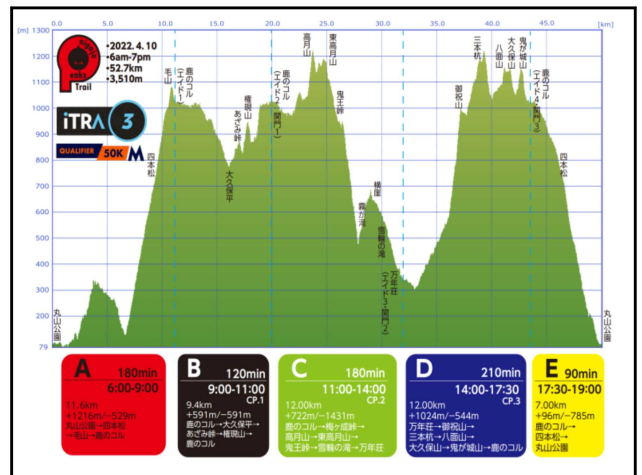
トレイルランレースの看板



滑床渓谷中継地点の様子



滑床渓谷の万年橋をわたるランナー



三本杭のコース内のゲート



三本杭のコース内で修理した柵

四万十川一斉清掃

四万十川流域5市町において、日本最後の清流とも言われる四万十川を後世に引き継ぐために、毎年、四万十の日（4月10日）前後に、四万十川と周辺河川の一斉清掃を行っています。

今年も4月10日を中心に、上流から「津野町」「中土佐町」「四万十町」「梶原町」「四万十市」の5市町が分担し、地域住民等のボランティアが集まり、四万十川一斉清掃が実施されました。

当センターの流域でも「四万十市西土佐地域(道の駅前)」で清掃に参加しました。

まず、運営責任者から、参加者に対し、「近年の四万十川の鮎の生息環境はあまり良くないが、清流四万十川を後世に引き継ぐための作業への感謝と、美しい四万十川を見守り共に活動を盛り上げていきたい。」と挨拶があり、清掃活動が始まりました。

本河川は、毎年、台風などによる大雨が過ぎると河川の両岸にゴミが残され景観を損なうこともありましたが、昨年は大水も少なく、ゴミを探すのに苦労する程でした。

清掃活動自体は1時間程度でしたが、プラスチック製品や金属の破片などがトラック1台分集められました。

その後、清掃活動場所近くの道の駅「よって西土佐6周年」で地域の食材を集めた物産展が同日開催されており、「見てよし、味わってよし」で、くつろぎ、作業終わりの疲れの解消にもつながりました。

今後も四万十川の良好な環境が維持できるよう地域の清掃活動にもボランティアで積極的に参加して行きたいと考えています。



四万十川清掃活動の様子



四万十川清掃活動の様子



回収されたゴミ



道の駅「よって西土佐6周年」の様子

滑床山開き

4月27日、愛媛森林管理署管内滑床山国有林の「滑床溪谷」で、松野町などが主催する恒例の「滑床山開き」が行われました。

山開きの神事には、愛媛森林管理署長をはじめ環境省土佐清水自然保護官など関係機関や、地元の松野東小学校と松野西小学校の三・四年生児童計27名も「緑の少年団」として出席し昨年度より多い60名の参加で厳かに神事が執り行われ、滑床溪谷利用者の安全を祈りました。

あいにくの雨の中ではありますが、児童の代表によるアメゴの放流も行われました。

山開き神事終了後には、「緑の少年団」を対象に、万年荘に場所を移し、当センターが、紙芝居「森」を基に森林教室を開催し、森林を守り育てることの大切さを説明し、これから1年間森林に関する学習をすることを約束し溪谷を後にしました。

滑床溪谷は、自然休養林及び国立公園として利用されるようになって半世紀を過ぎ、次ぎの半世紀へと繋いだ歴史ある地でもあるので、当センターでも、この滑床の自然の素晴らしさを、地元の児童に森林環境教育を通して伝えて行き、利用者には安全で健康的に利用してもらえよう巡視等も続けたいと考えます。

春先には、ここ滑床を中心に、宇和島市内から三本杭と滑床溪谷を通り高月山を経て宇和島市へ折り返す鬼ヶ城ピークストレイランレースのメインコースとして利用されるなど、日常を少しずつ取り戻しつつあります。



滑床おもてなし大使「なめ」

松野町では、キャニオニング利用や平成30年の西日本豪雨で崩落した道路や橋の修理やキャンプ場の整備拡充に着手する計画をしており、これからも滑床の良さを発信しながら、利用拡大と皆さんに安全で安心して訪れていただけるよう一連の山開き行事が終了しました。

昨年はコロナ禍で「山開き」は大幅に遅れましたが、今年は例年通りゴールデンウィーク前に行われ、愛媛県と南予9市町及び各種団体が主催する「えひめ南予きずな博」の開催と相まってますます「滑床溪谷」の利用者が増加しそうです。



玉串奉奠を行う愛媛森林管理署長



神事の様子



アメゴの放流の様子



万年荘内で森林教室「森」

希少ツツジの開花状況調査を実施

四国森林管理局では、愛媛県南部に自生するトキワバイカツツジの開花状況調査を毎年行っています。

今年も、コロナ感染予防にも配慮しつつ開花の時期に合わせて計画課と共同で4月21日に調査を行いました。

調査は、予め定めた標準木の開花数・生長量を記録するもので、今年は木によって、花の数や咲き具合にばらつきが多くありました。

そんな中、数年前の間伐により、陽光もよく蕾を着ける個体も少しずつ拡がりを見せてきています。

この時期には、ボランティアの方々にもパトロールの協力を頂いて保護されていますが、この周辺はニホンジカによる食害が続いており、当センターでは、平成24年からシカ食害防止ネットを設置し、トキワバイカツツジを単木保護すると共に定期的な巡視も行っています。

陽光を十分浴びたツツジは、調査を重ねる度に山を染める淡い紫色が年々鮮やかになっている様に見えます。

今後とも関係者や愛媛森林管理署の協力も得ながら、この希少植物の生息環境が維持できるよう継続的に取り組んでいきたいと考えています。



4月21日、開花状況調査の様子



4月21日、開花状況



5月2日、開花状況



5月2日、南楽園の植物園職員が視察

中学生に森林環境教育（西土佐中学校）

四万十市立西土佐中学校では、令和3年度から、「地域の自然や文化、歴史に興味関心を持つための学習と地域の魅力発見の場」として、自然や歴史のある土佐堂ヶ森を生徒が登山することになり、当センターが案内役として同行し森林環境教育を実施しています。

今年度は、5月12日、一年生13名と引率教員3名で登山(晴天時プログラム)をすることで計画していましたが、雨天のため登山が中止となり、予定していた雨天時プログラムを当センターのある旧西ヶ方小学校で実施しました。

森林環境教育の開会式は生徒の進行でスタートしました。

はじめに生徒代表から「今日はよろしくお願ひします。」と挨拶等がありました。担当教諭によると西土佐中学校では生徒の自主性や課題探求に重きを置いているようで、生徒に活動を通して仕切らせるのも学習の一環とのことでした。

そして、「山の学習」の最初に、「①ふれあいセンターの業務、森林管理について、苦労や思い」「②野生動物との共生や自然保護」「③土佐堂ヶ森物語と西土佐山と川の物語」「④森林鉄道や歴史等」の順にスライドを交えながら説明しました。加えて、西土佐地域には、古き良き日本の田舎の自然が残されていて、清流四万十川や歴史の由来がある土佐堂ヶ森、黒尊溪谷、山や川や田畑、星空も見飽きることのない美しさ、自然豊かな西土佐にはいろいろな魅力がいっぱいあることなども説明しました。

生徒達は真剣にメモを取りながら、生徒間で課題探求を行い、その都度質問をする等して、山の学習を深めました。

次に、休憩を挟んで、「無人航空機(ドローン)ミニミニ講習会」と題して説明等をしました。ドローンの概要、関連法規、ドローンの操作方法等について説明し、森林調査や山地災害現場で記録していた飛行映像なども見てもらいました。

その後、休憩を挟み、4班に分かれて丸太切り体験です。丸太切りの方法や注意事項等について説明し、ヤマザクラやミズメの丸太をノコギリを使って輪切りにする体験をしてもらいました。初めてノコギリで作業するという生徒もいましたが、全員が上手に輪切りを完成させました。

最後は、自分の輪切り(森のかげら)を使って木工クラフト作りです。当センターの事務室と木工室に分かれて、思い思いの作品作りに挑戦し、完成させました。

終わりに、生徒達から、「山の学習を契機にこれから西土佐地域の魅力発見

や様々な学習を通して自己研鑽に努めていきます。」とお礼の挨拶がありました。

また、担当教諭からは、「行けなかった土佐堂ヶ森登山体験についても、学習を進める中で、生徒がどうしても行きたいと言うことになれば改めてお願いしたいです。」との話がありました。

当センターでは、これからも教育関係者等が行う森林環境教育を積極的に支援していきます。



山の学習、ふれセン業務等を説明



山の学習、土佐堂ヶ森物語を説明



ドローンミニミニ講習会の様子



ドローン飛行映像上映



生徒間で話し合い、課題探求の様子



丸太切り体験の説明等



丸太切り体験の様子



木工クラフト製作の様子



木工クラフト製作の様子



ふれセンのある旧西ヶ方小学校

生徒からいただいた感想文

5/2 森林ふれあひセンターに行き、2
 分、たニとや考えたこと

今日分か、たニとは、木が育つ
 には、すごく時間がかかると分
 かりました。山の仕事をし
 ている人たちのおかげで、山の豊
 さが保たれていると思ひました。
 森林は大切にしたいと思ひま
 した。

5/2 森林ふれあひセンターに行き、2分、たニとや考えたこと

私は、森林ふれあひセンターの
 仕事は、ツカのひき地の自然再生
 や植生回復などをしていること
 がわかりました。野生動物のニホン
 ツカは36年の間で2.5倍にもな
 ったことがびっくりしました。ツカ
 が増えたのはハンターの減少と
 高齢化が増えているからだと知
 って、高齢化が生物の増加につ
 らげているんだなと思いました。

鬼ヶ城山系スケッチ

○シャクナゲはここ数年間、いっぱい花が咲きましたが、今年は蕾が少なかったです。



4月6日、三本杭山頂付近



4月6日、三本杭山頂



4月12日、鬼ヶ城山山頂付近



4月12日、鬼ヶ城山山頂



4月22日、鬼ヶ城山のシャクナゲ



4月22日、鬼ヶ城山のシャクナゲ

奥山にひっそりと咲くウツギ



5月16日、オニツクバネウツギ咲く



撮影場所はひみつです。

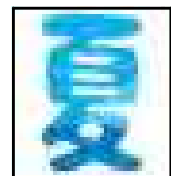
ドローン講習会IN西ヶ方を開催

5月17日、四万十森林管理署の平松森林情報管理官を講師に、ドローン操作技術の向上を目指した講習会を、旧西ヶ方小学校の校庭で開催しました。



当センターでは森林環境教育について ご相談を受け付けています。

当センターでは、国有林のフィールド（国民の森林）を使った森林環境教育（森林教室・木工教室・林業体験・森林散策等）や小中学校や高校、放課後児童クラブなどへの出前授業、学校林での活動など、教育関係者、NPOの団体の方々などからの様々な相談を受け付けており、できる限りの対応をいたします。お気軽に当センター（下記）までご相談下さい。



当センター（下記）

農林水産省 四国森林管理局
四万十川森林ふれあい推進センター
高知県四万十市西土佐西ヶ方586番地2
電話0880-31-6030 FAX 0880-31-6031

